

証券コード

5020



# JXホールディングス

## 2013年度決算説明資料

代表取締役社長            松下 功夫  
取締役常務執行役員    内島 一郎

2014年5月9日



エネルギー・資源・素材の<sup>みらい</sup>Xを。

JXホールディングス株式会社

# 目次

## 2013年度決算の総括

- 事業環境 2
- 2013年度決算概要 4

## 第2次中期経営計画の進捗

- 2014年度通期見通し概要 5
- 経常利益（在庫影響除き）・ROE推移 6
- 主要経営指標 7
- 設備投資の進捗 8
- 進行中・検討中プロジェクト 9
- 事業戦略の進捗 10
- 第2次中計の進捗 11
- 株主還元方針 14

## 2013年度決算の概要

- 2013年度決算 15

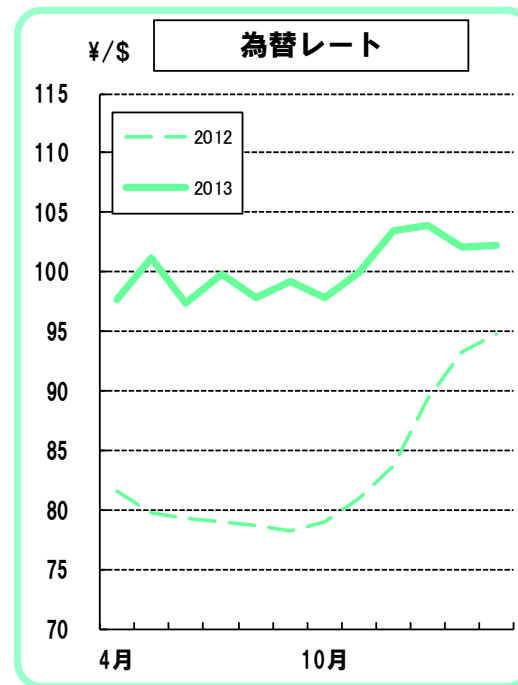
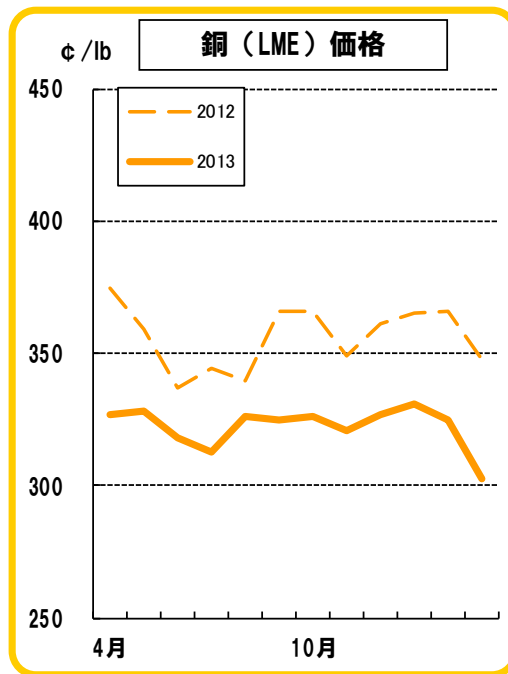
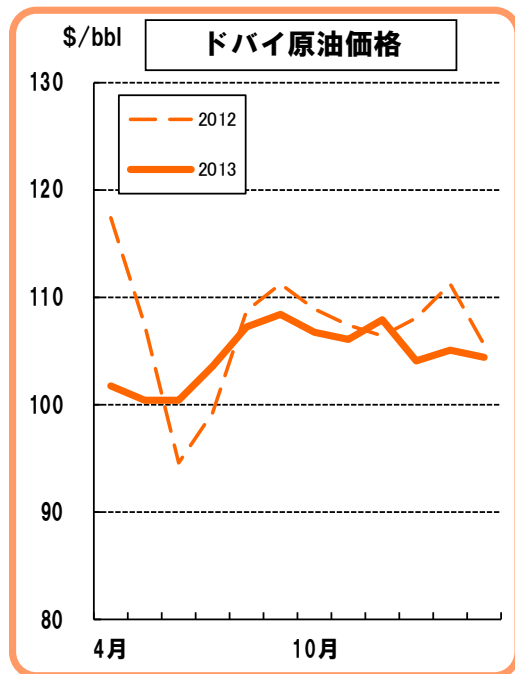
## 2014年度通期見通しの概要

- 2014年度通期見通し 22
- 前提条件 28
- 感応度 29

代表取締役社長 松下 功夫

取締役常務執行役員 内島 一郎

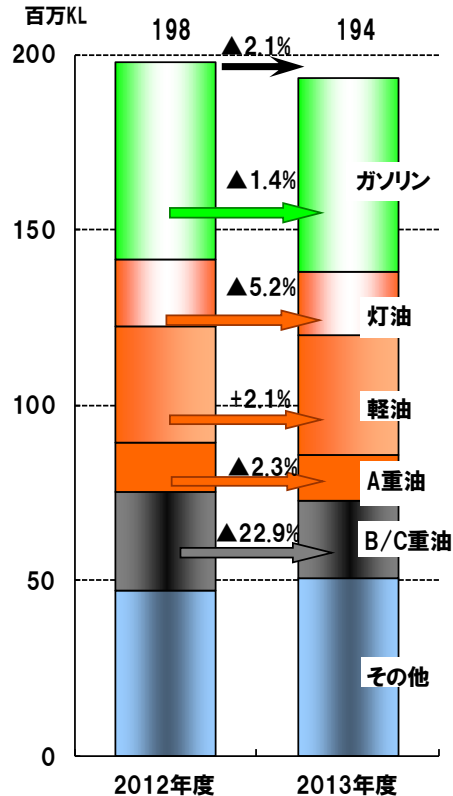
# 事業環境①（2013年4月～2014年3月）



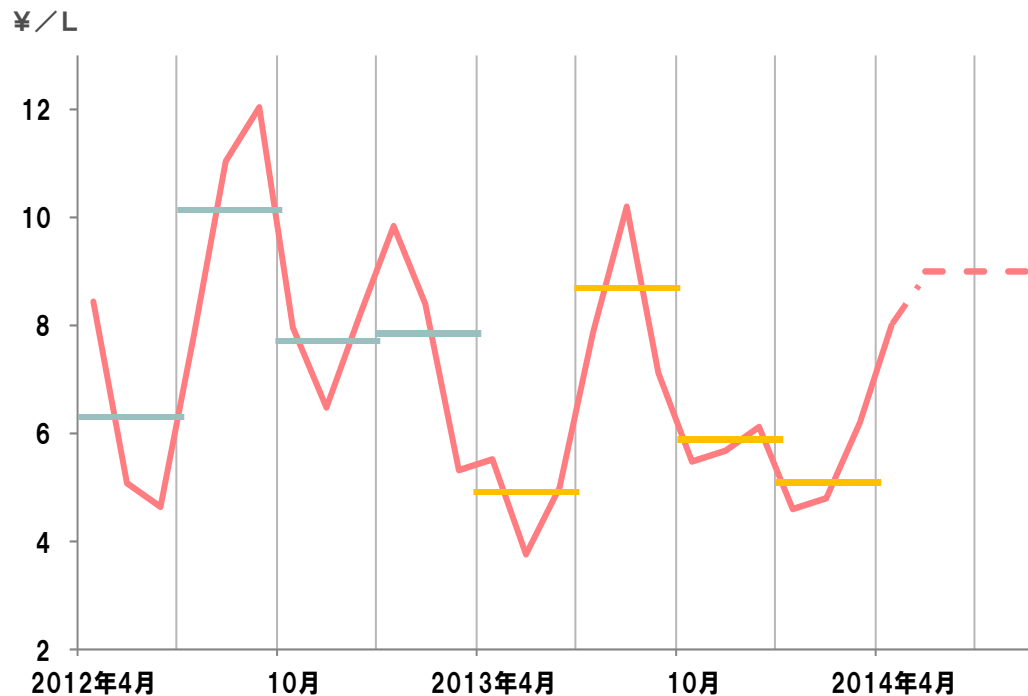
- 米国経済は失業率改善や堅調な個人消費を背景に緩やかに景気が回復、アジア経済は減速しつつも高い成長を維持。日本経済は円安による企業収益改善や株高に後押しされて、緩やかな回復基調。
- 原油価格は、中東・北アフリカ情勢の緊張が継続したことなどから、7月以降、高値圏で推移。
- 銅価は中国における需要減速懸念から、前期を下回る水準で推移。3月には中国における金融商品への組み込み問題を背景に急落。

# 事業環境② 石油製品需要・白油4品マージン推移・稼働率

石油製品国内需要・国内精製能力



白油4品マージン推移



\* スポット価格－全国通関原油C I F (石油税・金利含み)

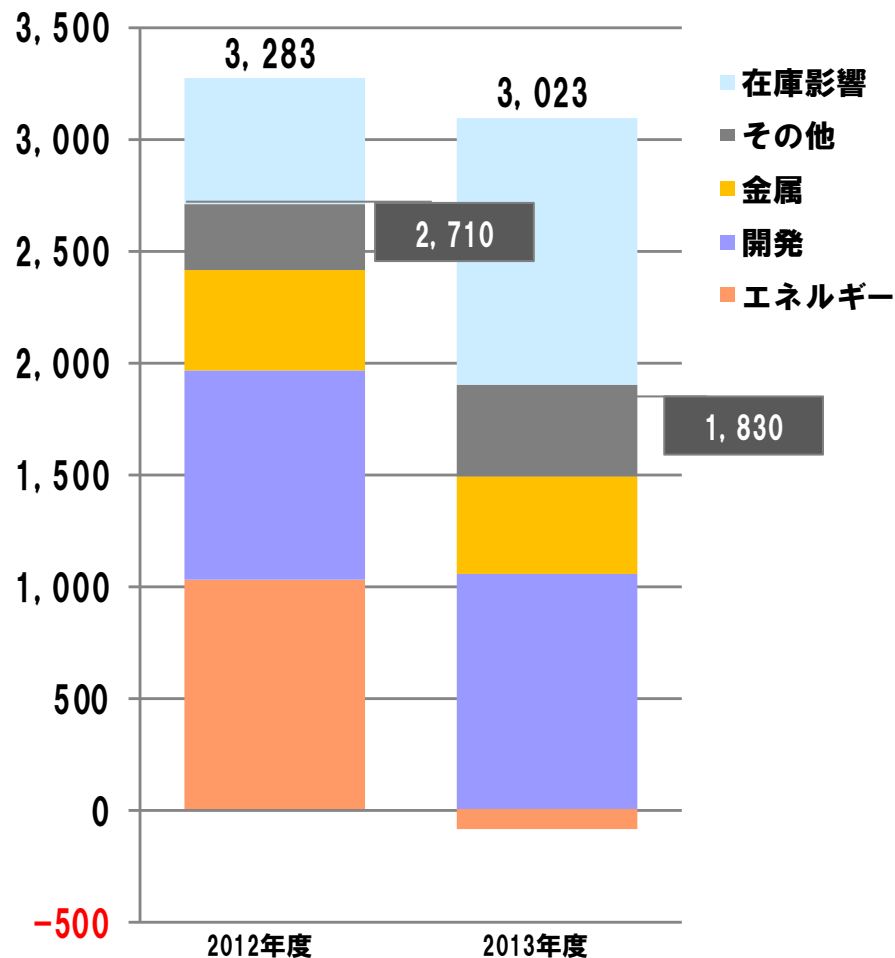
		2012年度	2013年度	2014年度(想定)
国内需要	(万BD)	341	333	333-α
	(百万KL/年)	198	194	194-α
原油処理能力*1 *2	(万BD)	427	426	373
	(百万KL/年)	248	247	217

JX トッパー稼働率(定修影響除き)

12年度	13年度
88%	89%

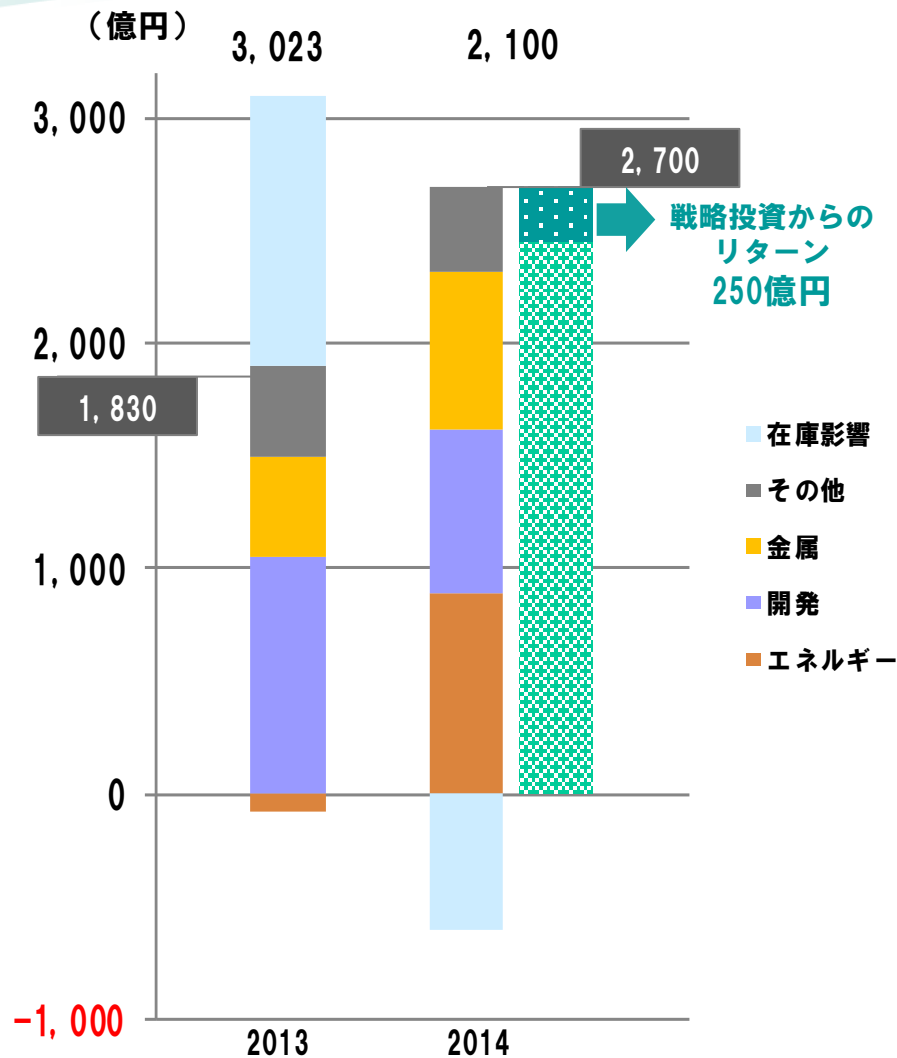
# 2013年度決算概要（経常利益）

（億円）



- 製油所の安全・安定操業に注力
- 在庫影響を除いた実質経常利益は、円安による増益効果はあるものの、石油製品マージンの悪化等により、前年比減益

# 2014年度通期見通し概要（経常利益）



## ➤ 前提条件

	2013年度	2014年度
原油価格 (\$/Bbl)	105	100
銅価 (¢/lb)	322	320
為替レート (¥/\$)	100	100

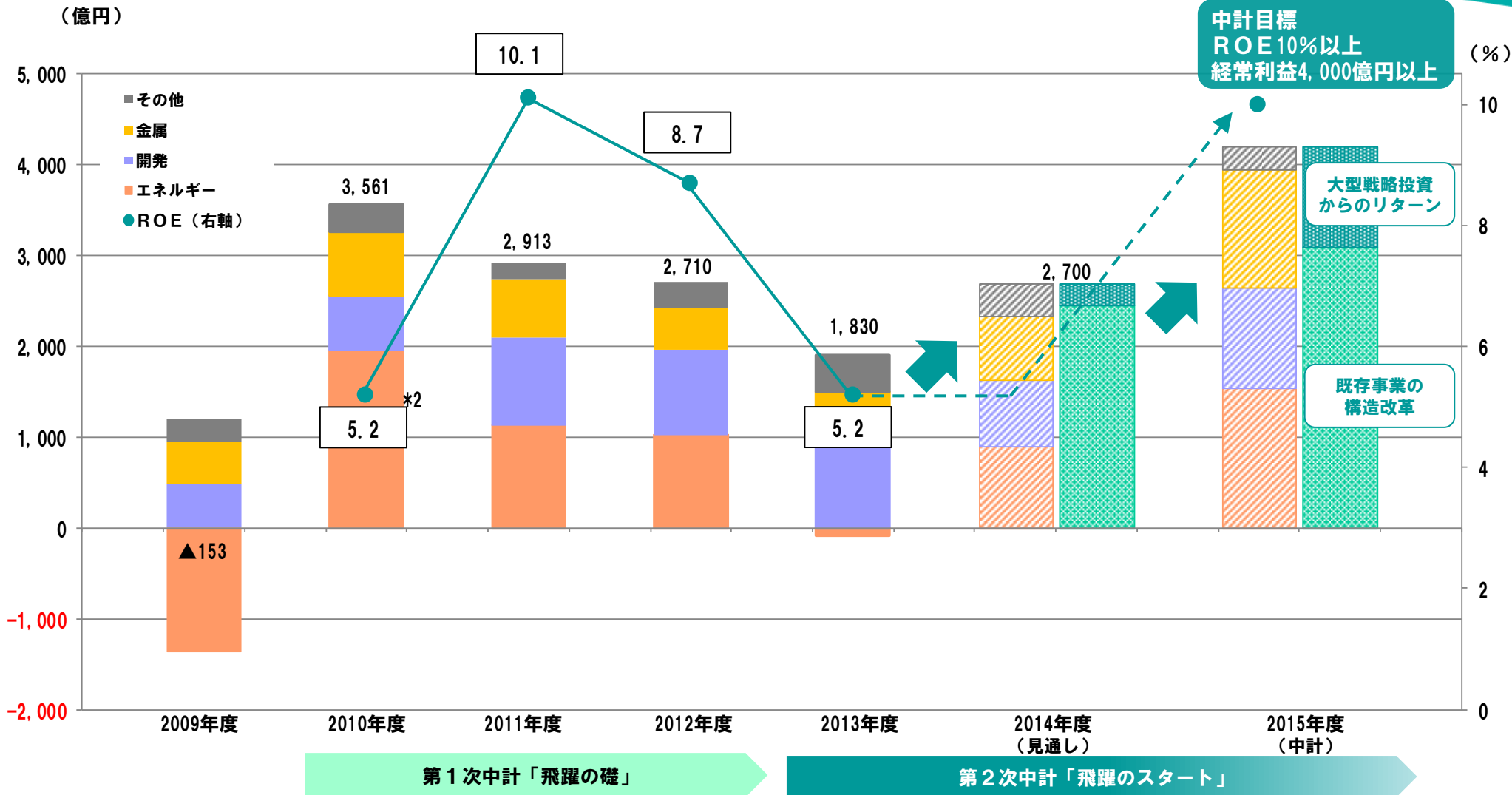
➤ 既存事業の安定化、戦略投資からのリターンも収益貢献を開始し、在庫影響除き経常利益は前年比増益

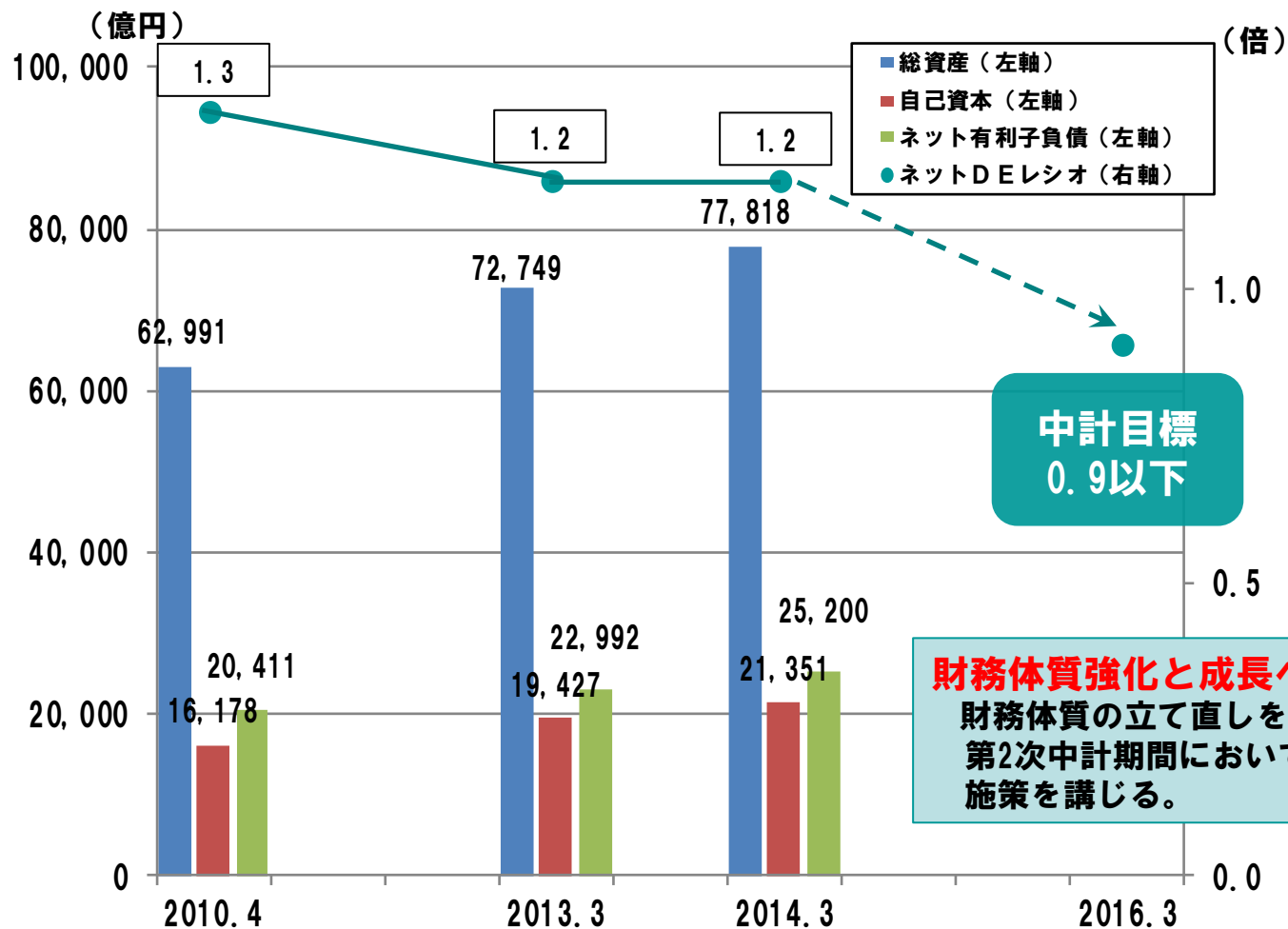
➤ 2014年度から収益貢献予定のプロジェクト

(エネルギー) 韓国パラキシレン  
(開発) ハブ・アニューキニアLNG, 英国北海キヌール油田  
(金属) カセロネス銅鉱山



# 経常利益（在庫影響除き）・ROE推移 <sup>\*1</sup>





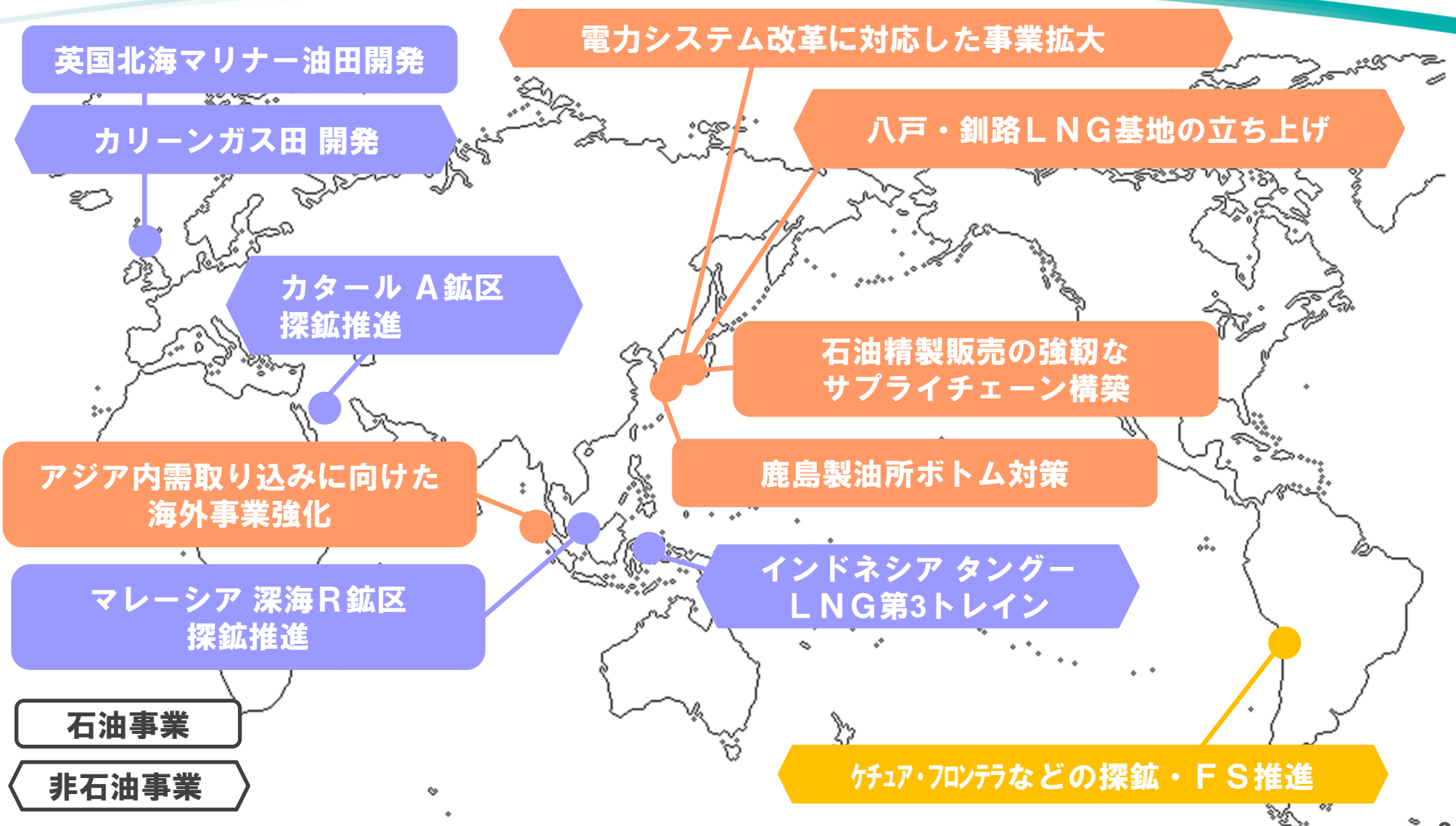
**財務体質強化と成長への備え**  
 財務体質の立て直しを図り、更なる成長投資に備えるため、第2次中計期間において、設備投資圧縮・凍結、資産売却等の施策を講じる。





	第2次中期経営計画 (2013～2015年度)	2013年度 (実績)	主な投資先
エネルギー	5,400	1,400	韓国パラキシレン他
石油・天然ガス開発	3,900	1,600	PNG LNG, 英国北海他
金属	3,000	1,900	カセロネス他
その他	700	100	
合計	13,000	5,000	

# 進行中・検討中プロジェクト



# 事業戦略の進捗（2013年4月～2014年4月）

## JXエネルギー

- 4月 日本初となるガソリンスタンド一体型水素ステーションを神奈川県海老名市にオープン
- 5月 中京圏初となるガソリンスタンド一体型水素ステーションを愛知県名古屋市にオープン
- 8月 福島県・秋田県・沖縄県でのメガソーラー発電事業の開始を決定
- 8月 鹿島製油所への溶剤脱れき装置および発電装置の設置を公表
- 10月 山口県でのメガソーラー発電事業の開始を決定
- 10月 (株)LIXILと業務提携契約を締結
- 10月 ファーストソーラー社と太陽電池モジュールの日本市場での販売事業に関する契約を締結
- 11月 かすみがうらメガソーラーが竣工
- 2月 インドネシアにおける燃料油の輸入・販売事業の開始を決定
- 2月 インドにおける潤滑油合併販売会社設立に向けた覚書を締結
- 3月 マレーシアLNG社とLNG売買契約を締結

## JX開発

- 5月 オーストラリア北西大陸棚フィヌケインサウス油田が商業生産を開始
- 6月 オーストラリア北西大陸棚において探鉱区権益を取得
- 7月 オーストラリア北西大陸棚WA-49-R鉱区においてガスを発見
- 9月 マレーシア・サラワク州沖における新規探鉱区を取得
- 11月 ベトナム沖15-2鉱区ランドン油田の権益期間を延長
- 11月 マレーシア・サラワク州沖において探鉱区権益を取得

## JX金属

- 4月 精密部材・コネクタ等を製造する掛川新工場が操業開始
- 11月 フラットパネルディスプレイ用および半導体用スパッタリングターゲットを生産する台湾日鑛金属股份有限公司龍潭工場が竣工
- 12月 銅精鉱・硫酸兼用船（鉱硫船）「鉱硫号」が竣工
- 1月 東邦チタニウム（株）がサウジアラビア王国におけるスポンジチタン製造合併事業について基本合意
- 3月 JX金属苫小牧ケミカルにおいてPCB廃棄物無害化処理の環境大臣認定を取得
- 4月 カセロネス銅鉱山で、鉱石処理試運転を開始

# 第2次中計の進捗（エネルギー事業）

第2次中計戦略	2013年度の主な取り組み
基幹事業である石油精製販売の収益力強化	室蘭製油所の石化工場化に向けた原油処理停止 鹿島製油所へのSDA建設を決定（ボトム対策） Dr. Driveリニューアルの推進
エネルギー変換企業としての事業拡大の追求	八戸・釧路LNG基地の建設が進捗 メガソーラー発電事業の推進 ファーストソーラー社と太陽電池の日本における販売契約を締結 （株）Lixilとの業務提携契約を締結 海老名、名古屋にガソリンスタンド一体型水素ステーションをオープン インドネシアにおいて燃料油の販売事業開始を決定
海外市場におけるプレゼンス確立	韓国パラキシレンプロジェクトの推進 インドにおける潤滑油販売合弁会社設立に向けた覚書を締結

## パラキシレンプロジェクト（韓国）

### ◆ 建設工事が順調に進捗

2014年 商業生産開始予定

生産能力：年間約100万トン  
 総投資額：約800億円  
 出資比率：JX日鉱日石エネルギー 50%-1株  
           SKグローバルケミカル 50%+1株

### ➤ グループ生産能力は年産312万トンに



# 第2次中計の進捗（石油・天然ガス開発事業）

第2次中計戦略	2013年度の主な取り組み
探鉱を主体とした埋蔵量・生産量の拡大	(オーストラリア) フィヌケインサウス油田が生産開始 探鉱鉱区権益を取得(WA-320-P鉱区, WA-155-P(2) 鉱区) WA49-R鉱区でガス層を発見
地域・技術のフォーカスによる優位性の確立	(マレーシア) サラワク州沖深海で新規探鉱2鉱区(2F・3F)
	(ベトナム) 05-1b/c鉱区で天然ガス・コンデンセート層を確認 ランドン油田権益の期間延長を決定
	(パプアニューギニア) LNGプロジェクトを推進

## LNGプロジェクト (PNG)

### ➤ 東アジアの需要家へLNGを安定供給

- ◆ LNG販売契約締結済み（650万トン）
- ◆ 出荷開始に向けた開発作業が着実に進行

2014年 出荷開始予定

生産能力：年間690万トン  
 権益比率：4.68%  
 オペレーター：Exxon Mobil



# 第2次中計の進捗（金属事業）

第2次中計戦略	2013年度の主な取り組み
（資源開発） 鉱山権益拡大による高収益体制の構築	カセロネスプロジェクトの推進
（銅製錬） 世界トップクラスのコスト競争力を有する事業体制を構築	銅精鉱・硫酸兼用船「鉱硫号」が竣工し、2隻体制がスタート 玉野製錬所において、パーマネントカソード化による電解工程効率化を推進
（電材加工） 各製品市場で世界トップクラスのシェアを維持・拡大	精密部材・コネクタ等を製造する掛川新工場が操業開始 スパッタリングターゲット材を製造する台湾新工場が竣工 世界最高強度を有するチタン銅箔の販売を開始 中国のめっき設備を増強
（環境リサイクル） ゼロエミッション環境配慮型の国際資源循環ビジネスを構築	各種メタル生産拠点の集約・効率化を実施 低濃度PCB廃棄物無害化処理事業の環境大臣認定を取得

## カセロネスプロジェクト（チリ）

### ◆ 生産開始に向けた試運転スタート

- 28年間の長期に亘り、銅精鉱の安定調達に寄与
- 資源・製錬のバランスの取れた高収益事業体制を構築

初期投資額：42億ドル  
 生産期間：2013～2040年（28年間）  
 SX-EW電気銅生産開始 2013年3月  
 銅精鉱生産開始 2014年5月（予定）

生産計画：

	当初10年間	28年平均	28年合計	
銅	精鉱（銅量）	15万トン/年	11万トン/年	314万トン
	SX-EW電気銅	3万トン/年	1万トン/年	41万トン
	合計	18万トン/年	12万トン/年	355万トン
モリブデン	3千トン/年	3千トン/年	87千トン	



# 株主還元方針

## 還元に関する基本方針

連結業績を反映した利益還元の実施を基本としながら、  
安定的な配当の継続に努めてゆく。

## 第2次中計期間における還元の考え方

基本方針に基づき、第2次中計期間（2013～15年度）においては、  
1株当たり年間16円の配当の継続に努める。  
既存事業からの収益を安定的に確保し、戦略投資からの  
リターンの実現が見通された段階で、増配を軸とした  
株主還元の拡大をはかる。

### 参考）配当金推移

	2010	2011	2012	2013	2014（予想）
配当（円/株）	15.5	16.0	16.0	16.0	16.0
一株利益（円/株）	34 <sup>*</sup>	69	64	43	44

\*負のれん一括償却益を除く

**2013年度決算**  
**(2013年4月1日～2014年3月31日)**



# 2013年度 決算概要 (前年比)

\* 3月から2月の平均 (≒到着ベース)

原油代 (ト'ハ'イ) (\$/B) *
銅 価 (¢/lb)
為替レート (¥/\$)

売上高
営業利益
営業外損益
経常利益 (うち在庫影響)
在庫影響除き経常利益
特別損益
当期純利益

2012年度 (実績)	
	109
暦年へ'ス (361)	356
暦年へ'ス (80)	83
	(億円)
	112,195
	2,515
	768
	3,283
	( 573 )
	2,710
	▲563
	1,595

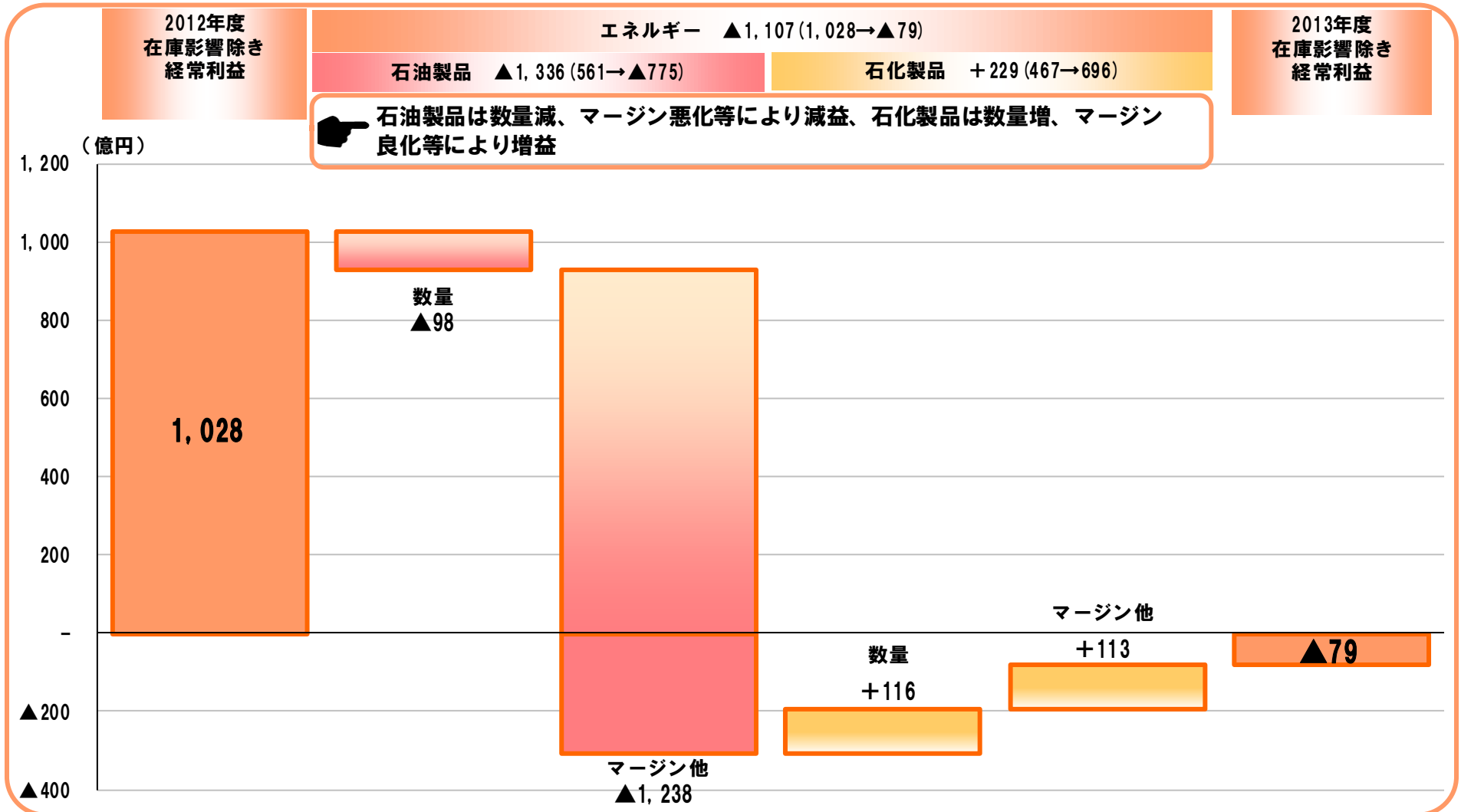
2013年度 (実績)	
	105
暦年へ'ス (332)	322
暦年へ'ス (98)	100
	(億円)
	124,120
	2,137
	886
	3,023
	( 1,193 )
	1,830
	▲820
	1,070

差 異		
	▲4	▲4%
暦年へ'ス (▲29)	▲34	▲10%
暦年へ'ス (+18)	+17	+20%
	(億円)	
	+11,925	+11%
	▲378	▲15%
	+118	+15%
	▲260	▲8%
	( +620 )	( +108% )
	▲880	▲32%
	▲257	-
	▲525	▲33%

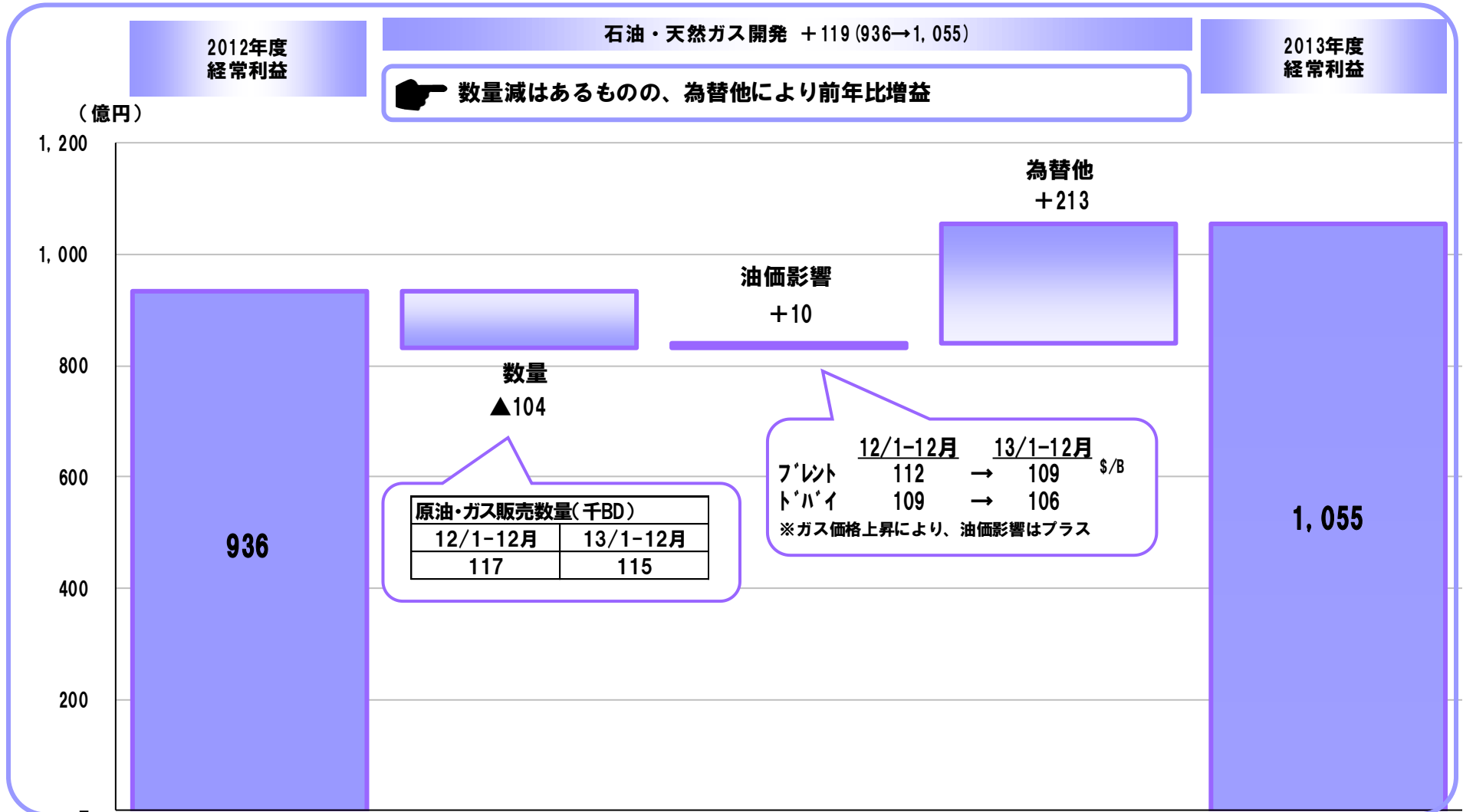
# 2013年度 セグメント別経常利益 (前年比)

	2012年度 (実績)	2013年度 (実績)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
<b>エネルギー事業</b>	1,616	1,082	▲534	▲33%
(うち在庫影響)	( 588 )	( 1,161 )	( +573 )	-
<b>在庫影響除き</b>	1,028	▲79	▲1,107	▲108%
(うち石油製品)	( 561 )	( ▲775 )	( ▲1,336 )	-
(うち石油化学製品)	( 467 )	( 696 )	( +229 )	+49%
<b>石油・天然ガス開発事業</b>	936	1,055	+119	+13%
<b>金属事業</b>	440	474	+34	+8%
(うち在庫影響)	( ▲15 )	( 32 )	( +47 )	-
<b>在庫影響除き</b>	455	442	▲13	▲3%
<b>その他</b>	291	412	+121	+42%
<b>経常利益 計</b>	3,283	3,023	▲260	▲8%
<b>在庫影響除き</b>	2,710	1,830	▲880	▲32%

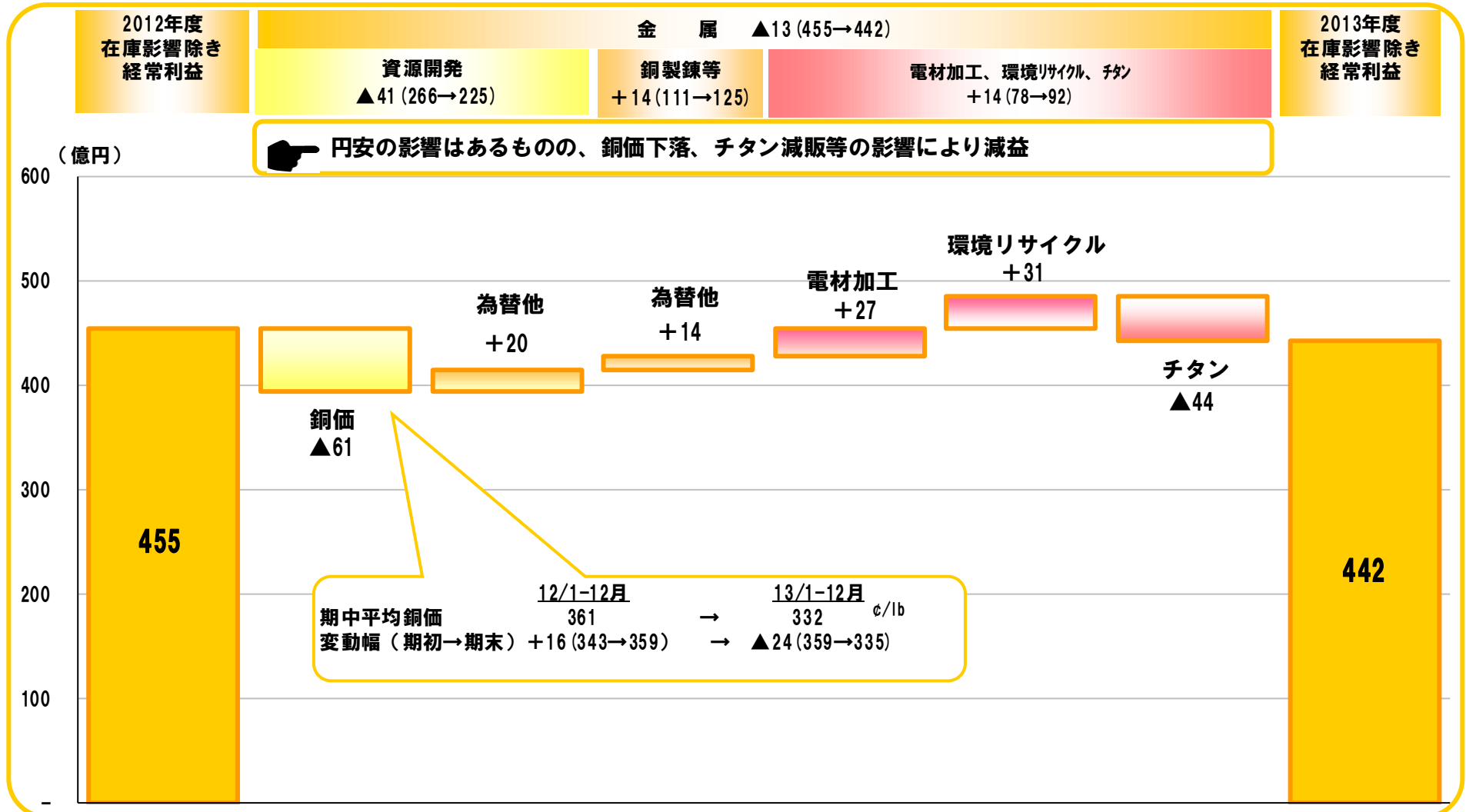
# 2013年度 エネルギー事業 経常利益増減 (前年比)



# 2013年度 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減 (前年比)



# 2013年度 金属事業 経常利益増減 (前年比)



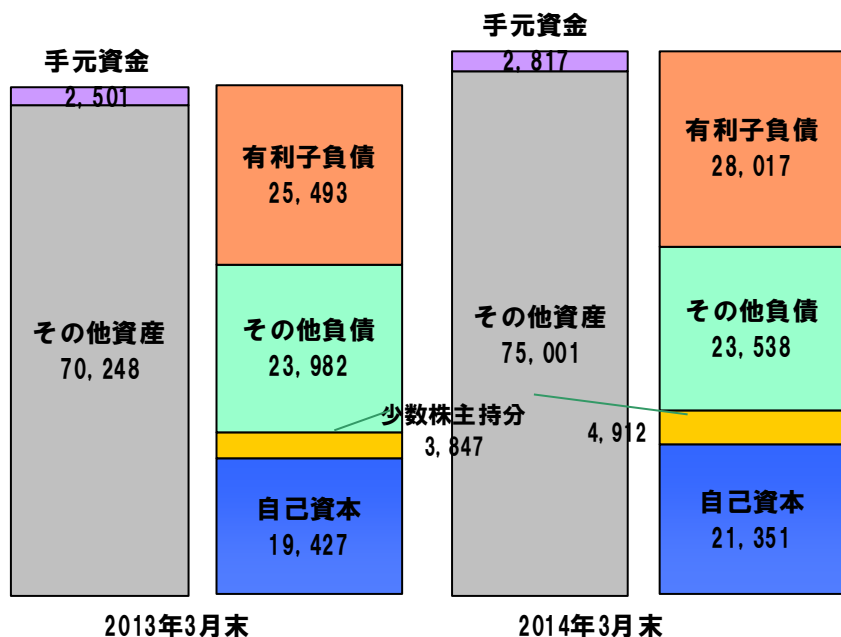
# 2014年3月末 連結バランスシート 2013年度 連結キャッシュフロー



## (連結バランスシート)

総資産：72,749

総資産：77,818



手元資金を除いた  
ネット有利子負債は  
2,208億円増加  
(ネットキャッシュ  
フローのマイナス  
[1,673億円]等によ  
り)

## (連結キャッシュフロー)

経常利益	3,023
減価償却費	1,836
運転資金	▲990
法人税他	▲817
営業キャッシュフロー	3,052
投資キャッシュフロー	▲4,798
フリーキャッシュフロー	▲1,746
配当他	73
ネットキャッシュフロー	▲1,673

	2013年3月末 (実績)	2014年3月末 (実績)
自己資本比率	26.7%	27.4%
ネットD/Eレシオ	1.18	1.18
ROE	8.7%	5.2%

# 2013年度 セグメント別経常利益（2月公表見通し比）



	2013年度 見通し (2月公表)	2013年度 実績	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
<b>エネルギー事業</b>	1,200	1,082	▲118	▲10%
（うち在庫影響）	( 970 )	( 1,161 )	( +191 )	+20%
<b>在庫影響除き</b>	230	▲79	▲309	-
（うち石油製品）	( ▲490 )	( ▲775 )	( ▲285 )	-
（うち石油化学製品）	( 720 )	( 696 )	( ▲24 )	▲3%
<b>石油・天然ガス開発事業</b>	1,040	1,055	+15	+1%
<b>金属事業</b>	440	474	+34	+8%
（うち在庫影響）	( 30 )	( 32 )	( +2 )	+7%
<b>在庫影響除き</b>	410	442	+32	+8%
<b>その他</b>	320	412	+92	+29%
<b>経常利益 計</b>	3,000	3,023	+23	+1%
<b>在庫影響除き</b>	2,000	1,830	▲170	▲9%

## 2014年度決算見通し (2014年4月1日～2015年3月31日)

- ✓ 2014年4月以降の見通し前提は、原油価格100ドル/バーレル、銅価320セント/ポンド、為替レート100円/ドル



# 2014年度 通期見通し 概要 (前年比)

\* 3月から2月の平均 (≒到着ベース)

原油代 (トバイ) (\$/B) *
銅 価 (¢/lb)
為替レート (¥/\$)
売上高
営業利益
営業外損益
経常利益 (うち在庫影響)
在庫影響除き経常利益
特別損益
当期純利益

2013年度 実績	
	105
暦年へ-ス (332)	322
暦年へ-ス (98)	100
(億円)	
	124,120
	2,137
	886
	3,023
	( 1,193 )
	1,830
	▲820
	1,070

2014年度 見通し	
	100
暦年へ-ス (320)	320
暦年へ-ス (101)	100
(億円)	
	117,200
	1,450
	650
	2,100
	( ▲600 )
	2,700
	70
	1,100

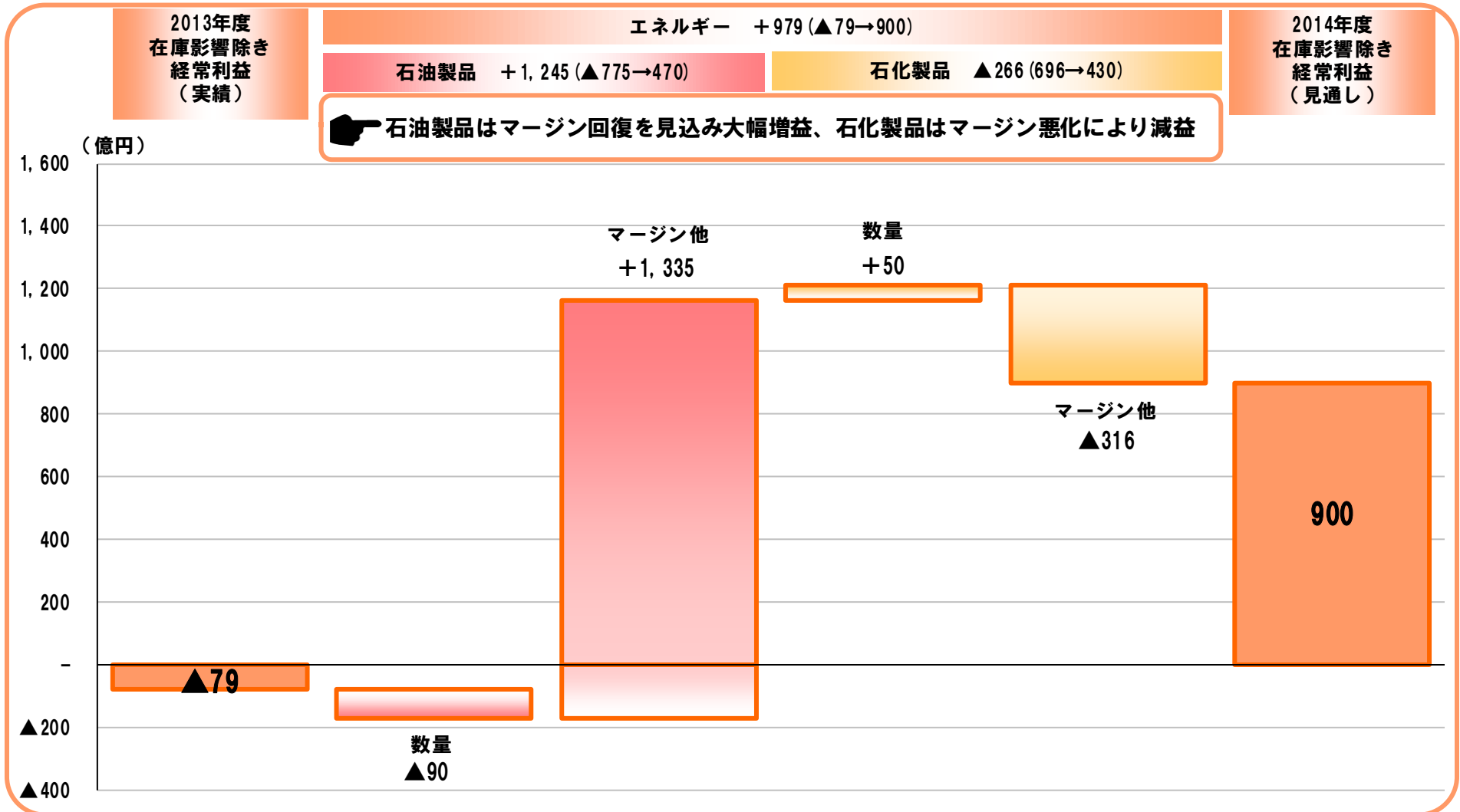
差 異		
	▲5	▲5%
暦年へ-ス (▲12)	▲2	▲1%
暦年へ-ス (+3)	±0	±0%
(億円)		
	▲6,920	▲6%
	▲687	▲32%
	▲236	▲27%
	▲923	▲31%
	(▲1,793)	( - )
	+870	+48%
	+890	-
	+30	+3%

# 2014年度 セグメント別経常利益（前年比）

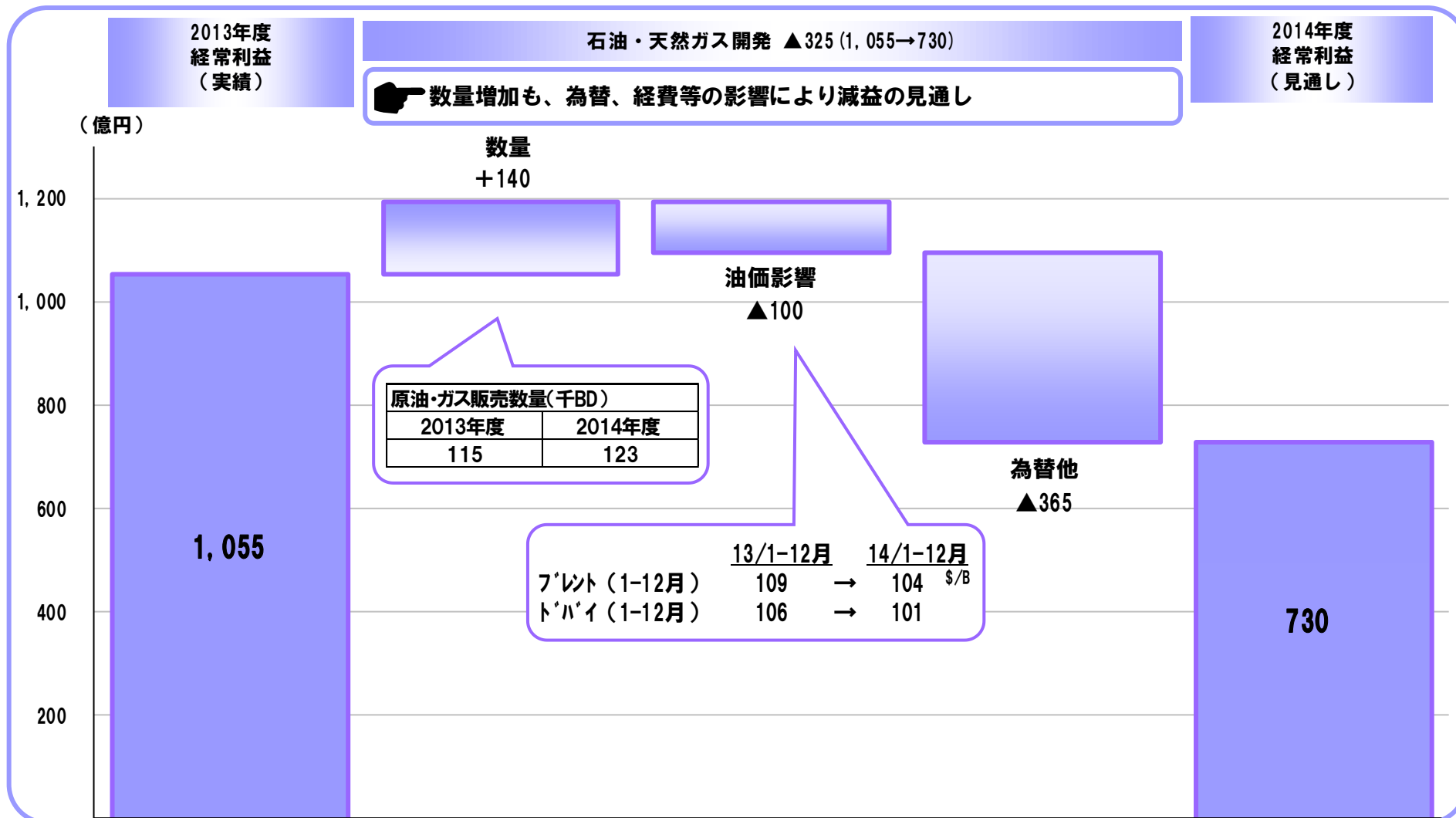


	2013年度 実績	2014年度 見通し	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
<b>エネルギー事業</b>	<u>1,082</u>	<u>300</u>	<u>▲782</u>	<u>▲72%</u>
（うち在庫影響）	( <u>1,161</u> )	( <u>▲600</u> )	( <u>▲1,761</u> )	-
<b>在庫影響除き</b>	<u>▲79</u>	<u>900</u>	<u>+979</u>	-
（うち石油製品）	( <u>▲775</u> )	( <u>470</u> )	( <u>+1,245</u> )	-
（うち石油化学製品）	( <u>696</u> )	( <u>430</u> )	( <u>▲266</u> )	<u>▲38%</u>
<b>石油・天然ガス開発事業</b>	<u>1,055</u>	<u>730</u>	<u>▲325</u>	<u>▲31%</u>
<b>金属事業</b>	<u>474</u>	<u>700</u>	<u>+226</u>	<u>+48%</u>
（うち在庫影響）	( <u>32</u> )	( )	( <u>▲32</u> )	-
<b>在庫影響除き</b>	<u>442</u>	<u>700</u>	<u>+258</u>	<u>+58%</u>
<b>その他</b>	<u>412</u>	<u>370</u>	<u>▲42</u>	<u>▲10%</u>
<b>経常利益 計</b>	<u>3,023</u>	<u>2,100</u>	<u>▲923</u>	<u>▲31%</u>
<b>在庫影響除き</b>	<u>1,830</u>	<u>2,700</u>	<u>+870</u>	<u>+48%</u>

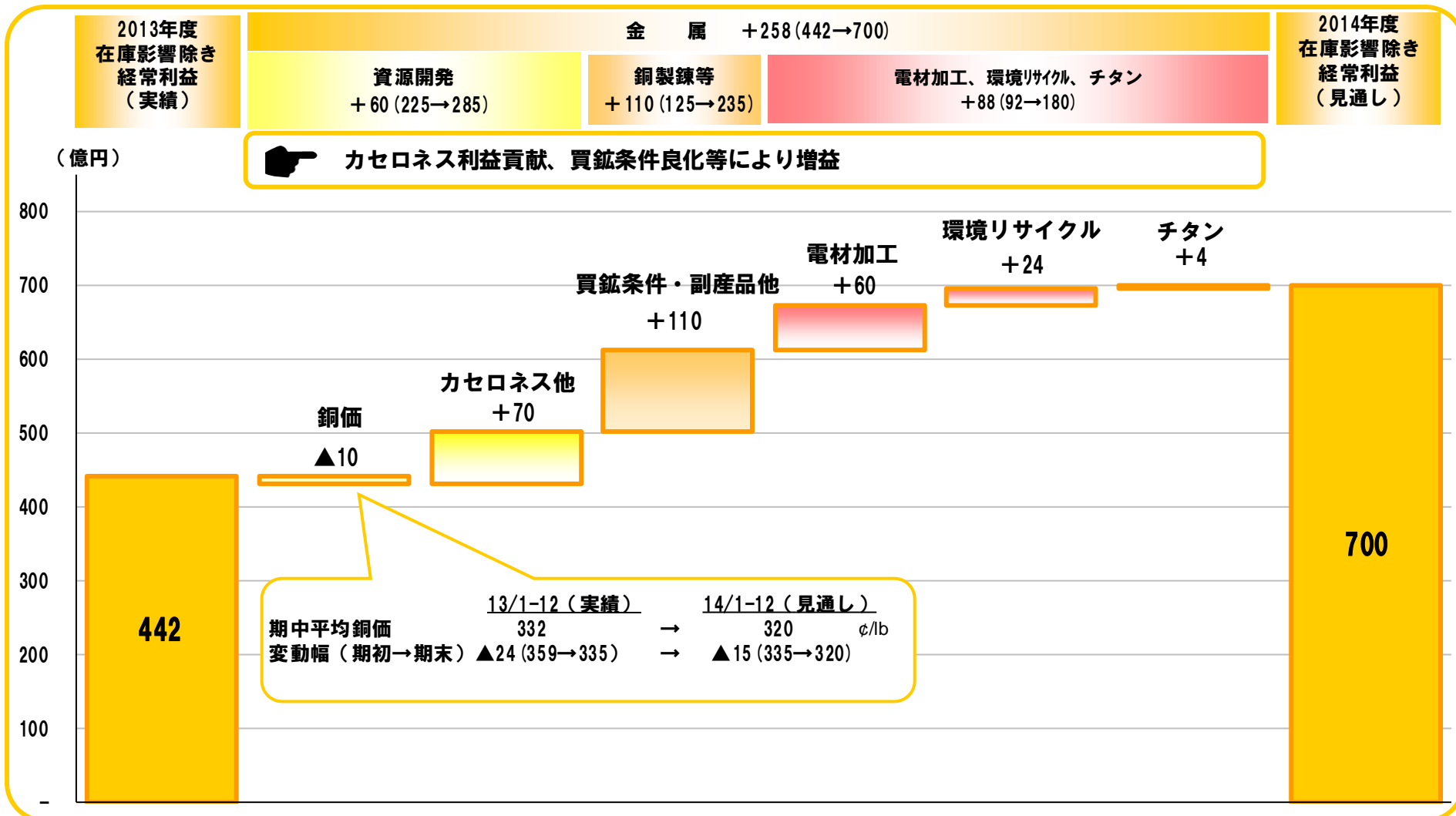
# 2014年度 エネルギー事業 経常利益増減 (前年比)



# 2014年度 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減 (前年比)



# 2014年度 金属事業 経常利益増減 (前年比)



# 前提条件

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
		実績	実績	実績	実績	実績	見通し
共通	為替レート（円/ドル）	93	86	79	83	100	100
エネルギー	ドバイ原油価格<年度>*（ドル/バーレル）	86	82	109	109	105	100
石油・天然ガス開発	原油換算販売数量（千バーレル/日）	143	140	128	117	115	123
	ブレント原油価格<暦年>（ドル/バーレル）	62	80	111	109	109	104
金属	銅価格LME<暦年>（セント/ポンド）	277	342	400	361	332	320
	銅鉱山権益生産量（千トン/年）	101	111	105	105	127	190
	PPC銅販売量（千トン/年）	605	588	566	551	588	609
	圧延銅箔販売量（千km/月）	2.7	3.3	2.6	2.7	3.0	3.6
	精密圧延品生産品販売量（千トン/月）	3.5	3.8	3.5	3.3	3.4	4.0
	環境リサイクル金回収量（トン/年）	6.3	6.5	7.0	5.8	6.1	6.5

\*到着ベース

# 感応度

## ■前提条件（2014年4月以降）

為替：100円／ドル      原油：100ドル／バーレル      銅価：320セント／ポンド  
 （ドバイスポット）

## ■市況変動による2014年度経常利益への影響額

項目	変動幅	変動項目	(億円)	
			影響度	
為替レート	1円/ドル 円安	エネルギー（燃費増、石化マージン良化等）	(±)	0
		石油・天然ガス開発	(+)	10
		金属（マージン良化、為替換算差等）	(+)	10
		小計	(+)	20
		在庫影響	(+)	70
		合計	(+)	90
原油FOB (ドバイスポット)	1ドル/バーレル 上昇	エネルギー（燃費増等）	(-)	20
		石油・天然ガス開発	(+)	20
		小計	(±)	0
		在庫影響	(+)	70
		合計	(+)	70
銅価 (LME)	10セント/ポンド 上昇	金属	(+)	50
		合計	(+)	50

## 将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。